平成 30 年 12 月 17 日

6 年生の保護者の皆様へ

中井町立井ノ口小学校
校　長　　加藤　丈之

平成 30 年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（報告）

師走の候、保護者の皆様には日頃から本校の教育活動に、ご理解、ご協力いただきありがとうございます。

さて、平成 30 年 4 月 17 日に第６学年の児童に実施した文部科学省の全国学力・学習状況調査の結果概要をお知らせいたします。今回の調査で測定できるのは学力の特定の一部分となりますが、今後の教育活動及び授業改善の参考にし、児童のさらなる学力向上を図っていきたいと思います。

各ご家庭におかれましても、家庭教育における児童の学習活動を支える基盤づくりの参考にしていただければ幸いです。

１　調査の概要

（１）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査の内容

①教科に関する調査（国語・算数・理科）

○国語Ａ、算数Ａ：主として「知識」に関する問題を中心とした出題

○国語Ｂ、算数Ｂ：主として「活用」に関する問題を中心とした出題

○理科　　主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

②質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。

２　本校の調査結果の概要

質問紙調査　※肯定率…「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

※比較評価：「上回る」…＋５ポイント以上、「同程度」…±５ポイント、「下回る」…－５ポイント以下

＜学習に対する関心・意欲・態度＞

○「算数の勉強は好きですか」の肯定率は 80.8％で、全国平均を 15 ポイント上回っていました。また、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定率は 93.6％で、全国平均を 5 ポイント上回っていました。さらに、「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の肯定率も 85.1％で、やや全国・県平均を上回っていました。

○「理科の勉強は好きですか」の肯定率は 89.3％で、全国・県平均を上回っていました。また、「理科の勉強は大切ですか」の肯定率は 85.1％で、全国・県平均と同程度でした。

○「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」では、理科実験頻度が全国・県平均よりも 10 ポイント上回っていました。

○「学級の友だちとの間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか」の肯定率は 89.4％で、全国・県平均を 10 ポイント上回っていました。

＜読書＞

●「学校の授業時間以外に平日１日当たり 30 分以上読書をしている」と回答した児童の割合は 29.8％で、全国・県平均を 10 ポイント以上下回っていました。また、放課後の過ごし方で「家で勉強・読書」との回答も 48.9％で、全国・県平均よりも 10 ポイント以上下回っていました。

＜家庭学習＞

○「学校の授業時間以外に平日１日当たり１時間以上勉強をしている」と回答した児童の割合は 61.8％で県平均と同程度でした。

○「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の肯定率は 65.9％で、県平均を 10 ポイント上回っていました。

また、「家での自学自習においての教科書の活用」は 70.2％で全国・県平均よりも上回っていました。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定率は 53.1％で、全国・県平均を下回っていました。

＜家庭でのコミュニケーション・基本的生活習慣＞

○「家の人（兄弟姉妹は除く）と学校での出来事について話しますか」の肯定率は、89.4％で、全国・県平均を 10 ポイント上回っていました。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定率は 72.4％で、全国・県平均を上回っていました。

●「毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか」の肯定率は、63.9％で、全国・県平均よりも下回っていました。

●「朝食を毎日食べていますか」の肯定率は 85.1％で、あまり食べていない児童も 4.3％見られます。

＜自尊感情・規範意識＞

○「自分にはよいところがあると思いますか」と「先生は、あなたのよいところを認めてくれている思いますか」の肯定率は、80.9％、91.5％で全国・県平均と同程度ですが、「とても当てはまる」がどちらも全国・県平均よりも 10 ポイント上回っています。

○「いじめはいけない」「人の役に立ちたい」の肯定率はどちらも 100％でした。　＜裏面に続きます＞

国語

【良いと考えられるもの】

＜Ａ問題＞

○全項目において、全国・県平均よりも上回っていることから、基礎基本は身についていると考えられます。（Ａ問題）

○無回答が非常に少なく、問題に粘り強く取り組む姿勢が見られました。

＜Ｂ問題＞

○記述式でも無回答が非常に少なく、自分なりに最後まで書こうとする粘り強さがあります。

○記述式の問題では、全国平均が 52％に対し、66％の高い正答率でした。物語や説明文などで、あらすじや要旨の要約を行ってきたことで、文章の引用とそれに対する自分の考えを述べることに慣れてきた成果と言えます。今後も学習の中に取り入れていきます。

【改善を要すると考えられるもの】

＜Ａ問題＞

●主語と述語の関係に注意して文を正しく書く問題では、半数が間違えている文に気付くことができましたが、正しく記述することに課題が見られます。主語・述語の学習は低学年から小単元で学習してきていますが、理解にとどまり定着には至っていません。主語が人でないときに間違いが多く見られました。

●敬語の理解が不十分で、敬う対象を読み取ることができていないように思います。

＜Ｂ問題＞

●記述式の問題の中でも条件が複雑になると正答率が下がります。複数の資料から引用することや、それに加えて文字数内に自分の考えをまとめること、「ふさわしい言葉遣い」にすることなど、全てを満たして書くことは課題です。

●「伝記　湯川秀樹」の一部が抜粋されているが、内容が理解できなかったようです。「へきえきする」など、普段あまり耳にしない言葉が複数出てくると、全体的に内容が読み取れていません。

【改善に向けての具体的な取り組み】

- 漢字は、読み書きともに今後も反復練習が必要です。同じ漢字でもいろいろな使われ方を知るために、辞書を活用させていきます。
- 主語と述語のつながりを自分で意識させるために、モジュール等で習熟を図ります。あえて誤答を提示し、訂正するクイズなどを行っていきます。
- 敬語は、内容理解から定着まで図れるよう、小単元だけでなくモジュール等で習熟していきます。
- 条件に合わせて書く経験を積む。文字数の条件を満たして書く活動には慣れてきているので、複数の資料にあたり必要な言葉を引用する、キーワードを活用して書くなど、様々な条件に合わせて書くことに慣れさせるようにしていきます。単元の振り返り等で継続的に行っていきます。
- 新聞や本を用いて、複数の記事、場面を比較したり関係づけたりしながら読む指導を行います。
- 読書の幅に偏りがある児童がいるので、色々な種類の文章に親しめるようにしていきます。わからない言葉があってもそこで諦めずに、その前後の文脈から推察し想像できるように指導していきます。

算数

【良いと考えられるもの】

＜Ａ問題＞

○全国・県とほぼ同じ状況であります。

○数量関係を数直線に表したり、分度器で角度を測ったりする問題は正答率が高く、よく定着しているといえます。

○無回答が少なく、記述式の問題に対しても自分で何とか回答しようと努力する姿勢が見られました。

【改善を要すると考えられるもの】

＜Ａ問題＞

●数量関係についてはあまり理解できていませんでした。小数の除法が苦手と見られます。

●単位量あたりの大きさ、基準量・比較量をとらえて割合を求めるなども正答率が 50％と低い状況でした。文章や表から基準量・比較量が正確に読み取れず混乱してしまうようです。

＜Ｂ問題＞

●文章が 3 ページに渡るような問題は正答率が低く、複数の情報を関連づけて理論的に考察し、数学的に表現したり、条件に合う事柄について、適切に判断したりする力に課題が見られます。

【改善に向けての具体的な取り組み】

- 数量関係や、小数の除法を用いる問題では、簡単な数字に置き換えるなどのスキルを確実にできるように努力しています。
- 問題文から具体的な場面をイメージし、答えの見積もりを立ててから立式・計算をさせます。また、見積もりと計算結果とを比較し確かめの習慣を身に付けさせたいです。
- 日常生活の中で、複数の情報を関連づけて根拠を明確にして式や言葉を用いて記述する学習場面を設けます。

理科

【良いと考えられるもの】

〇理科の正答率は、県より2ポイント高い62%で、16問のうち、９問が県と全国の正答率を上回っているので、概ね良好だったと言えます。正答率が10ポイント以上も上回る問題もあった。豊かな自然体験を通して、自然に関する基本的な知識が着実に身に付いていると思います。

【改善を要すると考えられるもの】

●16問のうち７問の正答率は、県と全国のどちらよりも下回っていました。10ポイント以上も下回っていた問題は、「人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ問題」ですが、事象を説明する力が不十分だったためか、筋肉の伸縮の観察が不十分だったため、もしくは選択肢の文の読解力が足りなかったため誤答が多かったと思われます。説明する内容と模型を一致させることができるような指導の重要性についても意識して授業を改善することが必要であると思います。

●全国の正答率よりも6ポイント以上も下回り、29.8%だった問題は、「食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く問題」で、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できるか見る問題でした。「食塩水の食塩は、蒸発しない」など、食塩のみが蒸発しないことを示す趣旨で解答すべきところ、水が蒸発することを示す趣旨や、溶かした食塩が残る様子を示す趣旨を記述した誤答が40.4%もありました。これは、結論を導きだす際に、設定された問題に立ち返り、実験結果を分析して考察し、問題に対する結論としての内容に改善することとに課題があると考えられます。

●本校は、基本的な科学的な知識はある程度定着していますが、科学的思考・表現に課題があることがわかります。実験を分析して条件を整理し、必要な条件を選び出して考察し、一般化する力や、説明する力などが不足していると考えます。

【改善に向けての具体的な取り組み】

- 実験を行う際には、実験のまとめ・考察・振り返りを重視し、現象を説明できるようにさせます。
- 条件を整理する力を身につけさせる一助として、プログラミング教育の要素を取り入れてフローチャートを作らせていきたいです。
- 問題文や図を読み取る力を身につけることに努め、「どのように」「どのようなことを」と尋ねられた時の答え方を授業で慣れさせていきます。
- 何を聞かれているのか、文章の中から必要な条件だけを取り出して理解する力を身につけさせていきたいです。
- 人体のしくみを学習するときは、模型を使ったり、自分の筋肉に触れたりして理解を深めさせます

〇国語・算数・理科の教科において、全体的に関心・意欲が高く、全国・県平均よりも全体的に正答率が上回っていることから、基礎基本は身についていると考えられます。（A問題）また、無回答が非常に少なく、問題に粘り強く取り組む姿勢が見られたことは素晴らしいことです。今後も教材教具を工夫したりするなど、様々な授業改善に努め学習への関心意欲を高めて参ります。

〇児童の 100%が、「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えていました。学校として、今後も家庭や地域と連携して、いじめ防止についてのきめ細かい取り組みを今後も継続していきたいと考えています。

●家庭での基本生活習慣で、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいに寝ている」と答えた児童の割合は、県・全国平均よりも 10 ポイント低く、読書時間においても同じ傾向が見られます。児童の健康や学習意欲に関係しますので、児童が主体的に学習したり読書をしたりできるよう家庭と学校が協力して改善していきたいです。